

除草作業中の飛び石には十分に注意！

～対策を講じていても飛び石が飛散することがあります～

肩掛け式草刈機は手軽に使える機械ですが、飛び石事故やケーブル損傷事故など、毎年のように事故が発生しています。危険性を認識し、用途に合った機械の選択や安全対策を行いましょう。

事事故例 防護措置が不十分で、事故発生



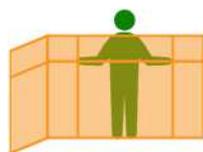
【事故概要】

除草作業の際の飛び石により、走行していた一般車両のサイドガラスが割れたもの。

【主な要因】

- ①草刈作業員と補助員の持つ防護ネットに離隔が生じた（事故発生時：2.85mと推定）
※防護ネットとの距離を50cmにするよう計画されていたが、実施されなかった。
- ②飛散を抑制するアタッチメントの装着を指示していたが、事故発生時は使用していなかった。

○ 防護ネットと離隔が生じる場合など、**現場状況に合わせて、L型や幅広等の防護ネットを使用し、安全性を高めましよう。**



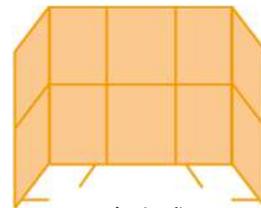
L型



丈高

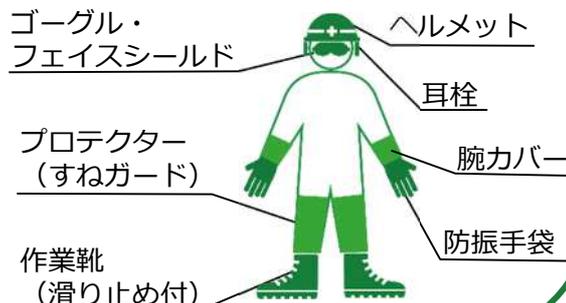


幅広



自立式

- 防護ネットの設置位置（距離）が適切かなど、**定期的に安全点検を行いましよう。**
- **飛散防止カバーや上下逆回転式の刈刃等を使用する**など安全対策を徹底しましよう。
- **防護具を着用し、作業員の安全性を高めましよう。**



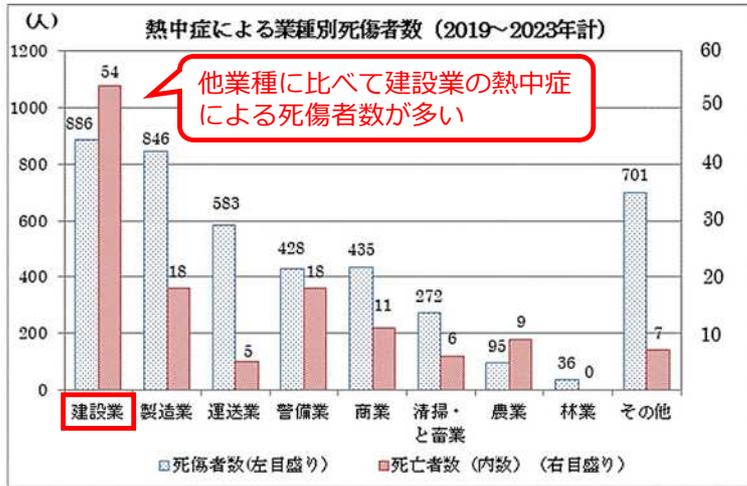
周囲の状況に細心の注意を払いながら除草作業を行いましよう！

熱中症対策は万全ですか？

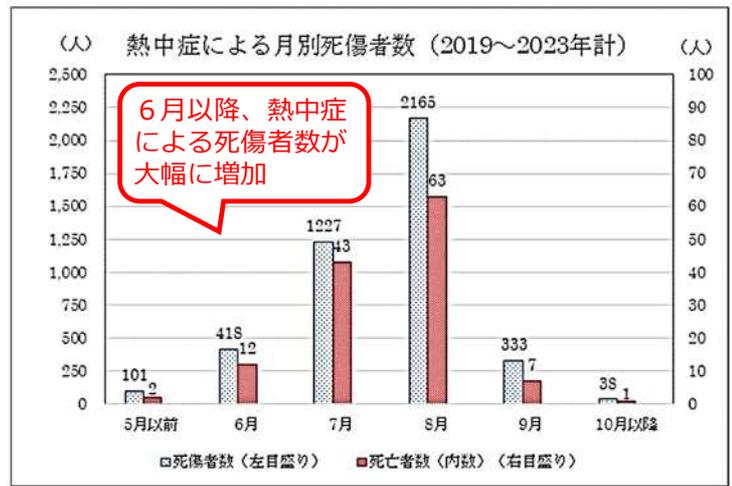
～建設業は熱中症リスクが非常に高い業種です～

建設現場において熱中症は深刻な問題です。熱中症を未然に防ぐことや、熱中症を疑う症状がある場合には、速やかに対応することが重要です。

熱中症の発生状況



他業種に比べて建設業の熱中症による死傷者数が多い



6月以降、熱中症による死傷者数が大幅に増加

グラフ：「令和5年 職場における熱中症による死傷災害の発生状況（確定値）」厚生労働省HPより

【注意】建設現場の中でも、場所や作業内容によって熱中症のリスクが異なります

※例えば、舗装工事で敷均しを行う作業員は、周りの人よりも輻射熱（放射熱）の影響を受けやすいなど

熱中症が疑われる症状



熱中症を防ぐポイント

- 作業前にあらかじめ体温を低下させる対策（プレクーリング）を行きましょう
※作業前にシャーベット状飲料（アイススラリー）を摂取するなど
- 暑さ指数（WBGT値）を計測し、現場内に周知しましょう
※**WBGT値を可視化**
- 休憩場所を整備しましょう
(エアコン設備、大型扇風機、日よけテント、ベンチなど)
- 水分と塩分をこまめに摂取しましょう
- 服装を改善しましょう
(ファン付きや吸汗速乾機能のある作業着を導入するなど)
- 日頃の健康管理に注意しましょう
(持病の把握、寝不足、二日酔いに注意するなど)



▲アイススラリーやイオン飲料、経口補水液等を常備



▲熱中症計（WBGT指数計）を携帯

熱中症を疑う症状がある場合は、すぐに救急車を呼びましょう。



熱中症を甘く考えず、安全に作業を行きましょう！